

令和4年度 岡山県立西大寺高等学校 重点目標

		重点目標と評価		
学校経営目標	新しい時代を生き抜く力を持った生徒の育成 ～自己肯定感を高め、進路目標に向かって主体的に学ぶ生徒の育成～	1 学びの環境を整備し、生徒の能力を最大限に引き出す。 (1) 物理的・精神的環境を整え、生徒の心身の健全な成長を支援する。 (2) 進路指導(＝キャリア教育)体制を再構築し、生徒・保護者・地域の満足度を高める。 (3) 地域の人的・物的資源を活用しながら生徒の挑戦を支援し、生徒の希望の実現に努力する。		
		2 生徒の思考力・判断力・表現力を高め、知識・技能の習得及び学びに向かう力の育成に努める。 (1) 主体的・対話的で深い学びの実現を核とし、ICT機器も利用して授業力向上に努める。 (2) 生徒の活動を肯定的観点から評価し、エビデンスに裏打ちされた教育活動を行う。 (3) 総合的な探究活動等の充実を通じて、地域貢献意識や自己肯定感を高める。		
		3 小中学校・地域との連携を進化させるとともに、中学校向け広報活動の充実を図る。		
該当する経営目標の番号	課・学科・学年等	具体的目標	具体的計画	達成基準
1	教務課	○新学習指導要領の実施に伴って、必要な整備(内規、評価など各種業務)を行う。 ○状況の変化に対応し、学習環境を整える。	○新教育課程への移行に伴う内規や評価方法、各種書類の修正、教科書選定などの関連業務を正しく行う。 ○コロナ禍での状況の変化に敏感かつ適切に対応し、学習体制を整える。	○新教育課程の実施に伴う必要な整備について、R4年度中に完成する。 ○「学校はコロナ禍でも、学習活動や・・・。」の回答の「よくあてはまる」が45%を上回る。
	進路指導課	適切な進路情報を提供し、受験に対応できる確かな学力を定着させる。 進路選択に関する基本知識や、多種多様な入試制度・入試の変更点等タイムリーな情報提供を行うとともに、早期からの進路意識の高揚を図る。 学習活動を中心とした生活習慣の早期確立を図り、実力考査、校外模試、補習授業、土曜講座を通して入試や就職試験に対応できる学力の定着を図る。	学年集会、CCT、LHR、また面接や懇談を通してタイムリーな情報提供を行い、生徒が希望する進路の実現を可能にする。 進学や就職に対する幅広い視野や将来に対する展望を持たせ、早期からの進路意識の高揚を図るため、『進路便り』を各学年年間10回を目標に発行する。 予習、授業、復習のサイクルを確立させ、1日平均180分(1.2年)の家庭学習時間の確保を目指す。担任による個人面接において、学習方法の指導を充実させる。 学年団教員と協力して、面接・小論文指導などを行う。 より高い進路実現に向けて、粘り強く最後まであきらめずに学習に取り組ませる指導を徹底する。	学校自己評価アンケートの「進路に関する情報が適切にされている」の数値を上げる。 (R3年度 生徒94.2%、保護者90.1%) 普通科・国際情報科の94%が共通テストを受験する。(昨年度93%) 民間企業への就職希望者が100%就職できる。
	生徒課	学校内外での諸活動を通じて、生徒が豊かな人間性や社会人として必要な資質を身につけるための援助を行う。	・TPOに応じた態度の醸成を通じて、公共心に富んだ社会人としての自立に必要な情報把握力などを向上させる。 ・エビデンスを明示した論理的な対話により、交通法規も含めたコンプライアンスの意識を高めてさせる。 ・生徒会活動などの特別活動や部活動に、本校の定めた活動目標や方針に基づきながら効率的に取り組ませ、心身の健全な成長を促す。	1.スカートなどの制服の着こなしや頭髮などの身嗜みを整えられる生徒、積極的に挨拶できる生徒が昨年度より増加している。 2.重大な交通違反や事故の件数が0となり、かつ学校自己評価アンケートにおける質問「先生はじめや生活指導上の問題を見逃さずに対応している」「社会人としてのマナーやルールを学習する機会がある」の生徒の肯定的回答が90%以上になる。 【昨年度 重傷を伴う事故0件、肯定的回答94%、84%】 3.学業優先の意識を持ちながら、特別活動や課外活動に能動的に参加できる生徒が増加している。 1及び3については、Google Workspace for Educationを使用したアンケートに対し、年度内に改善したと回答する教員がそれぞれ60%を超えている。
	厚生課	・校内美化に力を入れ、教育環境の整備に努める。 ・生徒の心身の健全な成長を支援する。	・教室環境を整備するとともに、清掃状況をチェックし、トイレ清掃を徹底する。 ・教職員が体調不良者への対応を適切に行うことができるよう、研修や情報共有の徹底を図る。	・学校自己評価アンケートで「校内美化が図られ、落ち着いた教室環境が整っている」の教員と生徒の肯定的回答が上昇する。(R3年度 教員81.8%、生徒74.7%) ・学校自己評価アンケートで「怪我や体調不良の場合に適切に対応してくれる」の生徒と保護者の肯定的回答が95%を維持する。(R3年度 生徒96.7%、保護者95.8%)
	図書課	・図書館を活用した探究活動の充実を図り読書に親しむ態度を育てる。 ・視聴覚・情報処理関連機器の活用頻度を向上させる。	・図書委員会活動の充実と、授業での図書館利用を促進し、読書への関心を深める。 ・継続した情報提供と機器の整備・保守により利便性を向上させる。	・授業・CCT・LHRでの図書館利用時間数が1年で150時間以上、貸出冊数が5,500冊を超える。 ・3冊以上借りる生徒数が60%を超える。 ・ChromebookをはじめとするICT機器メンテナンスの最新情報提供を年に5回以上行う。
	教育相談室	・心に悩みを持つ生徒やその保護者が安心して相談できる環境の整備に努める。	・休みがちな生徒・不登校生徒・保健室頻回利用者の情報を的確に把握し、必要に応じて生徒課とも連携し、チームで迅速な対応をする。 ・情報把握の手段として、「気づきシート」を積極的に活用する。必要に応じてアセスメントシートを作成し、対応の課程を的確に把握する。「気づきシート」は改訂を加え、生徒について多面的に把握できるようにする。 ・要支援と判断された保護者に対して、積極的な情報提供に努める。 ・思春期相談の開催について、保護者へはメール配信で、生徒へはGoogle Workspaceで周知する。	・月に1回以上、情報共有のための会議を開く。提案された対応策については、担任等に迅速に伝達する。 ・月に1回以上、相談室から学年団への情報共有を行う。これにより休みがちな生徒・不登校生徒・保健室頻回利用者等の情報が気づきシートに蓄積され学年の中で共有される。 ・ICTを通して周知することにより、学校自己評価アンケート「悩みを気軽に相談することができる」の肯定的割合を75%以上とする。(R3年度生徒78.9%、保護者75.0%)
	普通科	キャリア教育の推進を通して、各学年の段階に応じ、人生設計の一部としての進路意識を持たせ、生徒一人一人の目標達成のために取り組む力をつけさせる。	進路指導課・学年・担任・教科と連携し、LHR・CCT・担任面談を通じて進路(学習)への意識を高め、進学を見据えた学習活動の充実に向け働きかける。特に、1年次の文理選択LHRを科集会として行い、将来を見据え2・3年時にぶれない選択をさせる。	学年団・進路・教務課と連携して日程調整をして、夏休み前にLHRで科集会を持ち、文理選択を説明する。 ・学校自己評価アンケート「進路に関する情報が適切に提供されている。」の項目のマイナス評価の割合が5%以下【R3年度5.8%】
	1年	家庭学習習慣を定着させ、学習を中心に据えた基本的な生活習慣の定着を図る。その際chromebook等のICTの効果的な活用を適宜行う。	普通科と国際情報科においては、授業中心の学習スタイルを定着させ、週末課題等も活用し週あたり一日平均の家庭学習時間を3時間以上確保させる。商業科においては各種検定の取得に向け、計画的・自主的に学習に取り組ませる。	・普通科・国際情報科では家庭学習時間の定着が図られ、週あたり一日平均の学習時間が3時間以上の割合が30%以上となっている(R3年度 22%)。 ・商業科は検定合格率が85%以上となっている(全商検定合格率 R3年度 79.3%)
	2年	CCTにおける探究活動を通して、課題解決・進路実現に向けて主体的・自主的に取り組むことができる生徒を育成する。	○地域の人的・物的資源等を活用し、課題解決に向かって意欲的に取り組む指導を行う。 ○探究活動や面談を通して、自分の進路や夢(目標)について考えさせる。	○進路志望調査においてその他(多くは未定)の生徒が10人以下となる。 【現状】1年次の第2回進路希望調査ではその他(多くは未定)が11名であったが、第3回は15名に増加している。 ○探究活動において、2チーム以上の生徒が外部の発表会に参加をする。 【現状】過去2年はそれぞれ1チームが外部の発表会に参加をした。
	3年	進路実現に向けて、適切な進路指導を行い、生徒の能力を最大限に引き出し、進路目標を実現させる。	進路情報の提供、個に応じた面談、CCTや授業における進路学習、保護者と教師の連携	・学校自己評価アンケート「進路について、担任や進路指導課の先生が相談にのってくれる。」に対して全科生徒の肯定的評価が90%以上になっている。【R3年度3年次 肯定的評価91.1%】 ・国公立大学現役合格者(普通科・国際情報科)が延べ40名以上になっている。【R3年度39名】

	総務課	・「総合的な探究の時間」等の充実を通して生徒の地域貢献意識や自己肯定感を育む。	・各科、課、教科、CCT運営委員会との連携を深め、生徒の活動が充実できるよう連携できる期間や人的資源を開拓し広げていく。 ・ルーブリックを用いながら活動と評価を連携させていくことにより、生徒自らが探究のプロセスを体感できるようなサポート体制の充実を図る。	・学校自己評価アンケートにおいて「総合的な探究の時間等の取り組みを通して自ら課題を見つけそれについて考え学ぼうとしていく力が身についた」が90%を超えている。 ・ルーブリック評価において、年度当初よりも「本校で育みたい力をまんべんなく(具体的には5〜6つの力)伸ばすことができた」と各学期の振り返りの中で回答する生徒が各学年末には50%を超えている。
	学力向上委員会	・主体的・対話的で深い学びを実現し、学力向上に資する授業力向上を図る。 ・新学習指導要領実施に当たり、目標と評価の一体化について研究を深め、情報を共有する。	・OJTチーム研修や相互授業参観を通じて授業力向上に関する課題の共有、実践を行う。 ・生徒向け授業アンケートを年2回実施し、授業改善に役立っている。	・相互授業参観または公開授業参観を実施した教員の割合が100%(教員)【前年度実績なし】 ・学校自己評価アンケート「授業の進め方等に工夫が見られ、分かりやすく充実した授業である」の項目のマイナス評価の割合が15%以下【R3年度16.8%】
	国情報科	4技能を意識した授業と生徒が主体的に課題を見つけ学ぶ授業を展開し、留学生との交流会やイングリッシュキャンプなどの行事を通して異文化理解を深めさせる。	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の評価と改善を行う。 ・1・2年生の授業や行事でChromebook等のICTを効果的に活用する。 ・地域の学校機関と連携し、留学生との交流会を実施する。	・観点を示したパフォーマンステストを学期に1回実施する。 ・行事や授業アンケートにおいて、「ICTを活用することで授業(行事)での英語理解が深まった。」と回答した生徒の割合が70%以上となる。 ・地域の学校の留学生との交流会を年2回実施する。
	商業科	ビジネス活動に関する専門的な学習を深め、関連する検定や資格を取得し、社会貢献できる人材を育てるとともに、新学習指導要領実施の検証及び継続的な取組みを進める。	・地域の人的・物的資源を活用して、ビジネスマナーの向上や国内外の経済事情の把握、金融・金銭教育(租税教育、商品開発を柱として)の充実、勤労精神や地域社会貢献に対する意識を持たせ、周知する。また、新しく導入された情報教育機器が利活用しやすい環境を整備する。 ・新学習指導要領実施に伴う検証と継続的な取組みとして、現行科目及び新科目における教材・教具及び指導法の準備及び研究を進める。また、生徒一人一台端末を軸としたICT活用授業について、より効果的な研究と実践を進める。	・金融教育(租税教育、商品開発)を柱として、ビジネスマナーや経済事情に関する講演会等の実施及び商品販売に関する地域社会貢献活動における満足度が90%を超えている。また、行われた活動をすべての生徒に周知する。【令和3年度 88%】 ・インターネットに接続され、かつ様々な情報を処理するために必要なハードウェアやソフトウェアが整備されている。 ・新学習指導要領実施に伴う検証と継続的な取組として、現行科目及び新科目において、外部の情報を収集しながら具体的な教材・教具及び指導法の準備ができ、教員の意識も高揚し、実践に向けた準備が整う。ICT活用授業については、科内で効果的な指導法について適宜情報共有し、生徒がICTを活用し、互いの考えを交換したり、共有したりする授業ができる教員が90%を超えている。
	1年	CCTにおける進路研究や探究活動、また社会貢献活動等の様々な活動を通して社会性や規範意識を養い、自己肯定感を高める。	大学訪問や出前授業、CCT等においてchromebook等を活用して情報収集・分析を行い、学問や進路についての理解を深め、興味を広げていくとともに、自己の生き方について考えさせる。	学校自己評価アンケートにおいて、「将来の進路や生き方について学習する機会がある」の項目に肯定的に答える生徒の割合が85%以上になっている(R3年度83.6% * 1年生のみ)。
	2年	Chromebook等のICT機器を効果的に利用することにより家庭学習習慣の定着を図り、生徒の学力の向上を目指す。	○Chromebookによる課題配信、予習・復習の指導等を通して、家庭学習時間を確保させる。 ○週末課題や小テスト、補習、土曜講座等を通して基礎学力の定着を図る。	○進研模試の国数英総合・5科総合の平均点偏差値がいずれも48.0以上になっており、国数英総合・5科総合の偏差値50以上が70人以上、60以上が5人以上になっている。 【現状】現2年の進研模試の国数英の平均点偏差値は11月が48.4、1月が50.1である。11月は50以上が71人で1月は102人、60以上が11月は4人で1月は5人である。 ○情報処理検定と簿記実務検定における1級合格者が50%以上、全商英語検定1級合格者は7%以上とする。 【現状】現3年の情報処理検定と簿記実務検定は昨年度は9月の時点合格率40%を超えている。英検については合格率9%と例年に比べるとかなり高い。
	3年	主体的対話的で深い学びの実現を核とし、ICT機器を効果的に利用することで、生徒の学力を向上させる。普通科・国際情報科は進研模試の成績、商業科は検定合格者をそれぞれ向上させる。	授業(予習・復習)や課題の指導、小テスト、検定補習、土曜講座、ICT機器の活用の促進	・普通科・国際情報科は、進研模試の国数英総合・5科総合の平均点偏差値がいずれも48.0以上になっており、国数英総合・5科総合の偏差値50以上がそれぞれ45人以上・35人以上、60以上がどちらも3人以上になっている。 【普通科・国際情報科 進研模試 R3年度平均点偏差値5回平均(国数英総合46.0、5科総合45.0) R3年度 偏差値50以上5回平均(国数英総合42人、5科総合32人) R3年度 偏差値60以上5回平均(国数英総合2人、5科総合2人)】 ・商業科は、全商情報処理検定・全商簿記実務検定における1級合格者が50名、全商英語検定10人になっている。 【商業科 R3年度検定合格者3カ年合計 全商情報処理検定1級45人、全商英語検定1級9人、全商簿記実務検定1級48名】
3	総務課	・各科、課、教科等との連携を深め、小中学校に向けた広報活動の充実を図る。	・オープンスクール、学校説明会等を通して中学校の先生方や中学生・保護者に本校の教育活動について正しく理解してもらえるよう工夫を行う。	・実施後のアンケートにおいて「本校の教育活動についてよく理解できた」がそれぞれ70%を超えている。 (R3:62.2%, R2:未実施, R1:69.1%)